

第 17 回：目標さがし

教場長 田中仙融

新入学、また、新しい気持ちでスタートして一月。気持ちの良い季節になりました。
学校や組織に属しているときは、年度替りでのリセット、リスタートを否応なく強いられます。

さて、それに比べて習い事の世界はどうでしょう。季節の巡りくるのを楽しみにしていたら何年も経っていたという事が多く、自身で気持ちを切り替えて、目標を定めるというのは難しいものです。特に茶道は年数を重ねることに意味があります。しかし、ただただ年月を過ごしている関わり方には問題も残ります。

長盆の実技試験を始めた理由の一つはここに 있습니다。

資格の取得のための試験という意味もちろんありますが、今まで積み上げてきた稽古が、自分の中でどう咀嚼され、骨身となっているか見つめていただければと考えています。

そして、さらには今後の課題を探していただく機会にして頂きたいと願って始めました。

2 月にも試験を終え、講評という形でお一人ずつとお話しをします。

それぞれに努力されてきた姿を拝見した後は、褒めて差し上げる事に加え、「こんなことも忘れずになさってね」と、アドバイスを加えております。

「稽古を重ねてもう一度受けていいですか」、「課題と目標が見つかりました」、「今日まで大変でしたがこんなに充実した日々はなく、楽しかったです」と言う試験された方々の声を聞くと、とても嬉しくなります。

平点前、小習、中伝、行之行、真之行台子、丸盆の所作の積み上げが長盆です。目標を見失いかけた方も、もう一度さらい直して受けてみませんか。

仙樵居士が年を重ねてから若い師匠の元で仕舞を習い始めたように、常に自らの課題と目標を探して、茶道と関わっていく、その姿が何よりも素敵なお茶人ではないでしょうか。